

H22.03.15 中心市街地・商店街活性化セミナー開催

中心市街地の衰退や商店街の空き店舗の増加などにより、小売業を取り巻く環境が一段と厳しくなる中、地域の特色を活かした個性的で魅力あるまちづくりが求められている。そこで秋田市中心市街地活性化協議会では、3月15日にホテルメトロポリタン秋田において、商店街関係者等100人が参加し「中心市街地・商店街活性化セミナー」を開催した。

講師には、(株)全国商店街支援センター取締役センター長である服部年明氏と長野県岩村田本町商店街振興組合理事長である阿部眞一氏をお招きし、中心市街地や商店街に対する活性化策を講じ成功している先進事例の紹介や賑わいづくりの手法等についてご講演いただいた。

服部氏からは「中心市街地活性化と地域商店街活動の取り組み」と題して長野市の事例を紹介していただき、民間のまちづくり会社が運営するスーパーや公共施設、コールセンターが入居している状況を説明。中心市街地を活性化するためには中期5年間の事業計画で望むべきだとして、活性化事業を一つ一つやるのではなく、5年の間に矢継ぎ早に行わなければならないと述べた。

また、阿部氏からは「地域に密着した商店街を目指して」と題して実際に行っている空き店舗対策についてご紹介いただいた。魅力ある商店街とは魅力ある個店の集合体であるとして、そのためには商店街の中でしっかりとリーダーを育てることが重要であると述べた。

